

学修概要

本講義では、人の意識と行動を科学的に検討することによって人間性に対する理解を深めていく。すなわち、人の発達と個性、学習による行動形成、欲求と情動、対人関係の心理などを学び、患者さんに対する理解と医療人としての自己理解を深めていくことを目的とする。

- 教科書：藤田主一 他編著『新 医療と看護のための心理学』 福村出版
- 参考書：特に指定しない。
- 授業時間：火曜日 15：00～15：50, 16：00～16：50
- オフィスアワー：山崎 晴美 月曜日 17：00～18：00
yamazaki.haruyoshi@nihon-u.ac.jp
- 授業の方法：主に講義による。一部デモンストレーションとして心理テストを行う。また、授業内容に対する理解を深めるために、レポート課題を課す。
- 準備学習・ 教科書次回講義予定の箇所を必要な時間をかけて読んでおく
準備学習時間：と。
- 成績評価：定期試験(90%)およびレポート2回(各5%)により評価する。
- 実務経験：山崎晴美：日本大学歯学部医療人間科学分野所属。臨床心理士。医療の現場における心理学的な諸問題について理解していくのに必要となる心理学の基礎的理論と、臨床現場で有用となる事項について紹介していく。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第1回 10月1日 山崎 晴美	I. Introduction 1)心理学の誕生 2)心理学とは II. 発達 1)発達とは何か 2)発達の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の全人的理解に求められる心理学とはなにか、とくに目的、対象、研究方法、研究領域について理解する。 ・発達の視点から患者を理解する意義を学ぶ。 ・発達の原理について学ぶ。
第2回 10月1日 山崎 晴美	II. 発達 3)知的発達① (教) pp. 40-42, p. 45 プリント配布	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の考え方を理解する上で有用であるピアジェ理論を学ぶ。 ・ピアジェの発達段階のうち、乳児期に当たる感覚運動期の認知の特長を学ぶ。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第3回 10月8日 山崎 晴美	Ⅱ. 発達 3) 知的発達② (教) pp. 45-46 プリント配布	<ul style="list-style-type: none"> ピアジェの発達段階のうち、幼児期に相当する前操作期の認知の特長を学ぶ。
第4回 10月8日 山崎 晴美	Ⅱ. 発達 3) 知的発達③ (教) p. 46-47	<ul style="list-style-type: none"> ピアジェの発達段階の具体的操作期(児童期)と形式的操作期における知的発達の特徴を理解する。
第5回 10月15日 山崎 晴美	Ⅱ. 発達 3) 知的発達④ (教) p. 46-47	<ul style="list-style-type: none"> 成人期、および老年期の知的特徴を理解するとともに、年代間のコミュニケーションについて考察する。
第6回 10月15日 山崎 晴美	Ⅱ. 発達 4) 心理社会的発達① (教) pp. 44, 50-51 プリント配布	<ul style="list-style-type: none"> 患者理解の基礎となる生涯発達の視点について理解する。 エリクソンの心理・社会的発達段階に基づいて、人間関係形成の基礎となる乳幼児期の発達課題を理解する。
第7回 10月29日 山崎 晴美	Ⅱ. 発達 4) 心理社会的発達② (教) pp. 44, 51	<ul style="list-style-type: none"> エリクソンの心理・社会的発達段階に基づいて、児童期から青年期までの発達課題を理解し、自己の自我形成の過程を振り返る。
第8回 10月29日 山崎 晴美	Ⅱ. 発達 4) 心理社会的発達③ (教) pp. 44, 51-52	<ul style="list-style-type: none"> エリクソンの心理・社会的発達段階に基づいて、職業観の形成にかかわる青年期から成人期の発達を理解する。 高齢者に対する理解を深めるために、老年期の発達課題を理解する。 レポート第1回出題
第9回 11月5日 山崎 晴美	Ⅲ. 学習 1) 連合理論① (教) pp. 26-28	<ul style="list-style-type: none"> 学習の定義について理解する。 レスポンド条件付けについて理解する。
第10回 11月5日 山崎 晴美	Ⅲ. 学習 1) 連合理論② 2) 認知理論 (教) pp. 28-30	<ul style="list-style-type: none"> オペラント条件付けについて理解する。 学習の認知理論について理解する。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第11回 11月12日 山崎 晴美	IV. 知能と創造性 ①知能の定義 ②アセスメント (教) pp. 54-56, pp. 112-114	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんを尊重する医療を展開していくために、個人差に対する理解の重要性に気付く。 知能とは何か。また、知能はどのように測定されるのか理解する。
第12回 11月12日 山崎 晴美	IV. 知能と創造性 ③知能の構造 ④創造性 (教2) pp. 57-58	<ul style="list-style-type: none"> 知能はどのような構造をしているかを理解し知的個性の質的な差について考えていく。 従来の知能検査ではとらえられない「創造性」について理解し、いま一度知能とは何か考える。
第13回 11月19日 山崎 晴美	V. パーソナリティ 1) 性格の捉え方 2) 類型論① (教) pp. 54-56, 58-59 プリント配布	<ul style="list-style-type: none"> パーソナリティを理解する視点について理解する。 性格の類型理論の立場を理解する。 クレッチマーの類型論について理解する。
第14回 11月19日 山崎 晴美	V. パーソナリティ 2) 類型論② 3) 特性論 (教) pp. 59-60	<ul style="list-style-type: none"> ガレヌス、ユング、シュプラングー等の類型論を学ぶとともに、類型論的人間理解の問題点を理解する。 性格の特性論的アプローチについて理解する。
第15回 11月26日 山崎 晴美	V. パーソナリティ 3) 特性論 4) 状況論 (教) pp. 61-64	<ul style="list-style-type: none"> キャテルの特性論、5因子論、ミシエルの状況論について学ぶ。 物語（ナラティブ）として理解していく視点の理論的根拠の一つである状況論について理解する。
第16回 11月26日 山崎 晴美	V. パーソナリティ 5) 構造論 6) 役割と性格 (教) pp. 64-66	<ul style="list-style-type: none"> フロイトの理論にもとづき、パーソナリティの構造論について学ぶ。 パーソナリティ形成と社会的環境との関係について理解する。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第17回 12月3日 山崎 晴美	VI. 情動 1) 情動とは (教)pp. 71	<ul style="list-style-type: none"> • 患者の「気持ち」を理解するとはどのようなことなのか。「気持ち」を「欲求」「情動」「価値」等の意識現象として考えることの重要性を学ぶ。 • 情動（感情）の生態学的意味について考える。
第18回 12月3日 山崎 晴美	VI. 情動 2) 欲求と情動 3) 情動の種類 (教)pp. 68, 71-72	<ul style="list-style-type: none"> • 情動，欲求と我々の行動との関係について理解する。 • 基本的な情動の種類について理解する。
第19回 12月10日 山崎 晴美	VII. 欲求と適応 1) 欲求の種類 2) 欲求体系 (教)pp. 69-71	<ul style="list-style-type: none"> • 一次的欲求と二次的欲求について学ぶ。 • 我々の行動の原動力としての欲求について学ぶ。
第20回 12月10日 山崎 晴美	VII. 欲求と適応 3) フラストレーション（欲求不満） 4) 葛藤事態 (教)pp. 72-75	<ul style="list-style-type: none"> • 患者は疾病に伴いさまざまなフラストレーションを体験する。欲求不満事態とそれに対する反応について理解する。 • 患者は治療過程においてさ迷いや悩みを体験する。ここでは葛藤事態の基礎理論について理解する。 • レポート第2回出題
第21回 12月17日 山崎 晴美	VII. 欲求と適応 5) 防衛機制 (教)pp. 75-80	<ul style="list-style-type: none"> • 心理的緊張状態と適応における防衛機制（適応機制）の意味について理解する。 • 防衛機制の種類について理解する。
第22回 12月17日 山崎 晴美	IV. 人間関係の心理 1) 対人認知 (教)pp. 96-98 プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> • 患者との良好な人間関係を形成していくために求められる社会心理学的視点について理解する。 • 他者に対する好き嫌い(対人好悪)はどのように形成されるのか。その規定因について学ぶ。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第23回 12月24日 山崎 晴美	IV. 人間関係の心理 2) 社会的態度 (教)pp. 100 プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的態度の形成と変容に関わる諸要因について、理論と実験例とを対比しながら関連付けて理解する。
第24回 12月24日 山崎 晴美	V. 人間関係の形成 1) 友人との人間関係 2) 人間関係のルールとスキル プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友人関係を取り上げ、その意味について考える。 ・ 人間関係のルールとスキルについて理解を深める。
第25回 1月14日 山崎 晴美	V. 人間関係の形成 3) 自己開示とアサーション プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係形成の基本的スキルである自己開示の理解を深め、社会的距離について学ぶ。 ・ 人間関係形成の基本的スキルであるアサーションについて学び、具体的なメッセージの作成を行うことができるよう習熟する。
第26回 1月14日 山崎 晴美	VI. 家族における人間関係 1) 親子関係の形成 2) 児童虐待 プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対人関係の始まりとしての親子関係の在り方とその発達について理解する。 ・ 虐待はなぜ生じるのであろうか。その心理的、社会的背景について理解する。
第27回 1月21日 山崎 晴美	VII. 職場の人間関係 1) 集団と組織 2) リーダーシップ 3) 同僚との人間関係 (教)pp. 99-104 プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織としての職場における人間関係について考える。 ・ リーダーシップについて理解する。
第28回 1月21日 山崎 晴美	VII. 職場の人間関係 3) 同僚との人間関係 4) チームワーク (教)pp. 99-104 プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンバーシップを支える同僚との人間関係について理解する。 ・ チームワークについて理解する。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第29回 1月28日 山崎 晴美	VIII. 患者との人間関係 1) 病者の心理的特徴 (教) pp. 138-142 プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> • 病気になるとはどのようなことか理解する。 • 病者の心理的特徴について理解する。
第30回 1月28日 山崎 晴美	VIII. 患者との人間関係 2) 患者関係の理解 IX. 総括 (教) pp. 104-106, 138-142, 170-177 プリント配付	<ul style="list-style-type: none"> • 社会的役割としての患者さんの在り方について理解を深める。 • 患者さんとの人間関係の在り方について理解する。 • この後期の授業を振り返り医療における人間理解について理解する。